

今年初めてのメールマガジンをお送りします。気持ちも新たに、さらに心を込めてスタッフ全員で作りに上げていきたいと思っております。引き続きご愛読のほどよろしくお願ひします。

現在会員登録数 3,478 人さま。次号は 2 月 20 日発行の予定です。／

十----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----十

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

十-----十

■-----■
【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第 36 回 日産 童話と絵本のグランプリ」（令和元年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。

日 時：開催中～3月7日（日）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

3月上旬に予定している第 37 回（令和 2 年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。（～3月28日（日）まで）

詳細は↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36tenji

● 国際講演会「チェコの子どもの本 いま・むかし」 参加申込受付中！

オンライン（Zoom）で開催します。

日 時：2月13日（土） 14時～15時30分 参加費：無料

講 師：木村 有子 さん（チェコ語翻訳家）

〔参加方法 1〕会場のスクリーンでの Zoom 視聴

定 員：20 人 会 場：大阪府立中央図書館 2 階多目的室

※お申し込みは、当財団ホームページ「参加申込」から

https://www.justice.co.jp/seminar/list_form.php

〔参加方法 2〕自宅等での Zoom 視聴

定 員：40 人 参加場所：ご自身のパソコン、スマートフォン等で

※お申し込みは、外部決済システム「Peatix」から

イベント URL <https://czech.peatix.com>

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#030213czech

● オンライン視聴申込受付中！

○フォーラム「子どもの本の現在（いま）と未来（これから）」

申込受付は1月26日(火)まで(2月1日まで視聴可)

講師：宇野和美さん、富安陽子さん、竹下晴信さん、宮川健郎

司会：土居安子 視聴料：1,300円

◆お申し込みは、こちらから→ <https://10th-forum.peatix.com>

○講演会「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」

申込受付は2月18日(木)まで(2月25日まで視聴可)

講師：三宅興子さん 視聴料：1,500円

◆お申し込みは、こちらから→ <https://shikakeehon.peatix.com>

詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 再スタート10周年 一次の10年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間1万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント!

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム
■ ----- ■

《1》この本読んだ? Yasuko's & Kazumi's Talk

『エルビス、こっちにおいで』 ロドリゴ・モルレシン/文 きたむらさと
し/絵 宇野和美/訳 さ・え・ら書房 2020年10月 対象年齢：小学校低学
年以上

あらすじ：野良犬の子どもが、人間のトラックで母犬が連れ去られ、ひとりぼ
っちになる。野良犬の仲間に入るがいじめられ、逃げて交通事故にあう。
事故を起こした運転手が犬を病院へ連れて行った後、家に連れ帰る。犬
は、運転手の娘のアナの強い主張でその家の飼い犬になってエルビスと名
付けられる。ところがある日、アナが学校で倒れてしまう。犬の視点から
書かれた「家族」を見つける物語。

* 作品の結末に触れている部分がありますのでご了承ください。

Y：どんなきっかけで訳されたのですか。

K：出版社から問い合わせがありました。メキシコの出版社から売り込みが
あったのです。

Y：どんなところが魅力だと思いますか。

K：のら犬の子どもが多く、困難に遭うととてもつらい話なんです、何があ
っても前向きな持ち味が作家にあって、いつでもユーモアを持って描かれ
ている点が魅力だと思います。

Y：少しだけ気になったのは、アナが病気になったあと、あっけなく死んでし
まうところです。

K：そうなんです。私もそこは少し引っ掛かりましたが、メキシコの国の事情

を考えるとこういう展開もあるのかなと思いました。

Y：それはどういう意味ですか。

K：メキシコでは、ストリートチルドレンや貧困状態にある家庭も多く、理不尽な不幸に見舞われることはめずらしくありません。エルビスが体験したことも、メキシコの子どもたちにとっては、ある意味リアルに受け止められるのではないかと思ったのです。日本の子どもの中にはとまどう子どももいるかもしれませんが、異文化を背景にした文学を読む体験として受け入れてもらえればなと思いました。

Y：なるほど。エルビスが手に入れる家族はアナがいないアナの家族です。死を体験した者どうしが、血はつながっていなくてもともに生きていくというメッセージなのかと思いました。

きたむらさとしさんの絵が魅力的です。

K：そうなんです。原書から入っていた絵です。きたむらさんはメキシコでも人気があります。見返しに犬の絵がたくさんありますが、きたむらさんがたくさん犬の絵を描かれてできた挿絵だと思います。犬でありながら、体や顔の豊かな表情で読者は感情移入することができます。

きたむらさんの絵がたっぷり楽しめるところもこの本の魅力です。アナの手紙も題字もきたむらさんの手書きのぜいたくなつくりです。そんなに文字数は多くないのですが、絵があることで160ページの本になっており、総ルビ。エルビスと親しんで「1冊読んだ」という達成感を味わってもらえたらうれしいです。

* 今回のゲストはスペイン語の翻訳家の宇野和美（K）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第65回「ツェねずみ」

反復の音楽

ツェねずみは、何回も何回も「償うて下さい。償うて下さい。」というのです。償(まど)うは、「弁償する。つぐなう。埋め合わせる」(『大辞林』第四版)。

ちえっという舌打ちを思わせる「ツェ」という名前のねずみが古い家のまっくらな天井裏に住んでいます。ある日、床下街道をきよろきよろしながら歩いていると、すれちがった、いたちが早口にいます。——「お前んとこの戸棚の穴から、金平糖がばらばらこぼれているぜ。早く行ってひろいな。」ツェねずみが、よろこんで戸棚の下まで走っていくと、そこにはもう、蟻の兵隊が四重の非常線をはっていました。蟻の特務曹長が「ここから内へは行ってならん。早く帰れ。帰れ、帰れ。」といますから、ツェねずみは、いそいで巢に帰りますが、気もちがおさまりません。いたちの家へ出かけていきます。

〈「みんな蟻がとってしまいましたよ。私のような弱いものをだますなんて、償うて下さい。償うて下さい。」

「それは仕方ない。お前の行きようが少し遅かったのや。」

「知らん知らん。私のような弱いものをだまして。償うて下さい、償うて下さい。」〉

いたちは、親切に声をかけたのに、この調子ですから、すっかり怒って、ツェねずみに愛想づかしをします。天井裏の柱とも、ちりとりとも、バケツとも同じようなことがあって、「償ってお呉れ。償ってお呉れ。さあ、償ってお呉れよ。」と詰めよります。

「この「ツェ」ねずみの戦術は、言ってみれば「敵の内懐にとびこみ、その力を封鎖する」というやり方に似て」といっていると述べたのは別役実ですが（『イーハトーボゆき軽便鉄道』1990年）、そうしたことより何より、読み手にひびくのは、「償うて下さい。」の際限のない繰り返しです。「償うて下さい。」の反復が、「ツェねずみ」というテキストを律するリズムをつくり、「ツェ」という音や、そのツェねずみが金平糖を「コチコチ」食べたりする、独特のオノマトペを巻き込みながら、一つの「音楽」になっていきます。

そして、ツェねずみに「償うて下さい。」という力をうしなわせたのは、「人間よりは、鼠の方に、よけい同情がある」、針金で編んだ鼠捕りだったのです。（馬車別当）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 19

「こんな けったいな はなし、あるもんやろか。」
そやけど ありがたいことや。
バスは いきを ふきかえしたみたいに、
からだじゅう ゆすぶって
はしりだしよった。

（『いちにち にへん とおるバス』中川正文/作 梶山俊夫/絵 ひかりのくに
1972年）

バスがめずらしかった昭和初期。朝と夕に町と村を一度だけ往復するバスがありました。朝、町へ向かうバスに途中で乗り込んできた男の子は、お金を持っておらず、「さかなやのおばはん」がバス代を払いました。男の子は町に到着する前に消えてしまいます。

夕方、バスが出発するころに雪が降り始め、バスは峠で雪のために立ち往生してしまいます。バスに乗っているのは、銀行員、郵便配達、明日に村で結婚式をあげる花嫁とその一行。雪深い山の中で夜が更けていき、みんなは寒さとひもじさで「ちょっとの ことでも、すぐ おこりだしよる。」ようになります。ところが、車掌さんが外へ出てみると、バスの通るところだけ雪かきがされていたのです。

そこで、冒頭の引用になります。「けったい」という言葉には、驚きと喜びとともに、バスの中の不穏な空気を作っていた自分たちの行いを恥じる気持ちも含まれているように思えます。次の文でバスが擬人化され、バスに乗っていた人たちの一体感と、バスを大切に思う気持ちがユーモラスに描かれています。

ゆきかきをしたのは、男の子に化けていたとうげのたぬきと仲間たち。「さかなやのおばはん」には、「にやり」とするようなお礼の手紙が来ます。中川正文先生（当財団の4代目理事長）は、子どもの頃、バスが来たら、後ろを追いかけて、排気ガスを吸い込んで「いい匂い」と喜んでいたという話をよくしてくださいました。タイトルは「いちにち にへん とおるバス」となり、「とおる」ということばに、いつもバスを見ていたであろうたぬきの視点

が重なります。関西弁のリズムが心地よく、ちょっと皮肉をきかせたユーモアが独特の世界を表現しています。梶山さんの雪の描写も息を飲むほど美しい絵本です。(Y)

《4》 行って来ました！

大丸梅田店で1月31日まで開催されている「誕生45周年記念 ねずみくんのチョコッキ展 なかえよしを・上野紀子の世界」に行ってきました。展示は7章に分けられ、「ねずみくんの絵本」シリーズの最新作を含む絵本原画やスケッチ約180点、「少女チコ」の油絵、『ちいちゃんのかげおくり』（あまんきみこ作 あかね書房 1982年）の絵本原画などが展示されています。

『ねずみくんのチョコッキ』(なかえよしを作 上野紀子絵 ポプラ社 1974年)のシリーズは、現在までに36冊刊行されています。作品は、なかえさんと上野さん夫婦の共同作業で作られていて、なかえさんの描いたラフスケッチをもとに上野さんが絵を描いたそうです。上野さんは2019年2月に逝去されましたが、なかえさんが上野さんの絵をパソコンで組み合わせたり合成したりして、最新作を作られたそうです。

展示された原画にはお話が添えられていて、作品ごとに楽しめます。白い背景に黒色の鉛筆で描かれた小さいねずみくんの絵は、物語の世界が広く感じます。博報堂のグラフィックデザイナーだったなかえさんが、フォルクスワーゲンの「Think small.」という広告にインスピレーションを得たという解説になるほどと思いました。

ゾウやさる、あしかなど登場する動物たちの表情が豊かです。大きなゾウから小さなねずみまでが大きさ順に並んだ構図が何度も出てきます。展示のところどころにエピソードクイズがあって、原画を見て考えることができ、答えは壁の下の方にねずみくんが教えるように書かれています。展示を見ているうちに、『また！ねずみくんのチョコッキ』や『またまた！ねずみくんのチョコッキ』が出版された頃、私は小学生で、図書の時間にみんなで取り合うように読んだことをなつかしく思い出しました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介
■ ----- ■

- 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座
「激動する世界の中で、市民とともに歩む図書館の役割」
講師：稲垣房子（元奈良大学教授）
日時：2月9日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会
会場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）
定員：80人 ※事前申し込みが必要、当日参加は不可。
申込先：osakakodomobunko@gmail.com
参加費：無料 資料費：100円
主催：大阪府子ども文庫連絡会 共催：大阪市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓
http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html
※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『エルビス、こっちにおいで』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.125 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

+++++

2020年12月24日、画家・装幀家・絵本作家として多方面で活躍された安野光雅さんが94歳で逝去されました。

安野さんは、当財団のシンボルである「牧神マーク」をデザインしてくださいました。天地を逆にすると大阪城のイメージにもなるとおっしゃったそうです。多くの作品や文章を通して空想の広がり、ものの見方や考え方の多様性を教えてくださった安野さん、本当にありがとうございました。財団は、牧神マークを大切にに使わせていただき、子どもの本と子どもの本の文化のために活動を続けていきたいと思えます。

安野さんデザインの牧神マークはこちら(財団HP左上のイメージです)

<http://www.iiclo.or.jp/>

+++++

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

初ウォーキングで地元の神社とその裏山へ。ボランティアさんのおかげで足を運ぶたびに整備され、ずいぶん歩きやすくなっていました。手入れされた水仙郷はまだつぼみが多く、これからが見ごろです。マスクを外して、ほのかな甘い香りを胸いっぱい吸い込み、久しぶりに自然を満喫しました。

(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
